

図書館だより

2020年
11月号
2020年11月13日発行

だんだんと秋が深まり、朝晩には冬の気配を感じるような寒さとなってきました。健康管理にはいつも以上に気をつけていると思いますが、疲れを溜めないようにしたり、体を冷やさないようにしたりしながら元気に過ごしましょう。

さて今月6日、所沢市に「ところざわサクラタウン」がグランドオープンしました。ここは出版社KADOKAWAによる日本初のコンテンツモールで、ミュージアム・イベント・ホテル・レストラン・書籍・オフィス・神社と様々な施設が集まっています。その中心となる角川武蔵野ミュージアムの中には約5万冊の蔵書が収められた巨大本棚の空間「本棚劇場」やKADOKAWAグループのライトノベルがほぼ全て揃った「マンガ・ラノベ図書館」など本の世界を楽しめる空間がたくさんあります。新名所が誕生し、所沢がこれからますます賑わうと思うと嬉しいですね。混雑を避けて出かけてみたいです。



あたたかな小物で寒さをガード

594-オ 『手編みの小もの』 雄鶏社

マフラーやショールは冬の寒さから身を守ってくれる強い味方です。首元をあたためることで血行が良くなり、体もあたたまります。また防寒という面だけでなく、冬のファッションのアクセントにもなってくれる優秀なアイテムといえるでしょう。この冬は自分で選んだ毛糸で、自分の気に入ったデザインのものを選んでみませんか。簡単に編めるシンプルなものから、編地がおしゃれなものまで色々な作り方が載っているので、「どれを作ってみよう？」と選ぶ楽しさもあります。手袋や靴下の編み方も載っているので、編む楽しさに目覚めた人はどんどん作品を編んでみてください。

埼玉の新名所も要チェック

291-ル'21 『るるぶ埼玉』 JTBパブリッシング

るるぶ埼玉の最新版です。今月6日にオープンした「ところざわサクラタウン」や県内初の公園内店舗として狭山にオープンする「スターバックス」、2018年にオープンした「ムーミンバレーパーク」など、埼玉の最新情報がチェックできます。その他にも埼玉の観光名所である川越や秩父のことも詳しく紹介されていますし、新1万円札の顔となる渋沢栄一のふるさと深谷もクローズアップされています。埼玉の見どころとグルメのことはこの1冊を読めば、ばっちり網羅できます。自分の住まいの近所に「こんなところがあったんだ！」という発見もあるかもしれません。

「図書館と県民のつどい埼玉」今年も開催します

毎年開催されている「図書館と県民のつどい埼玉」ですが、今年も十分なコロナウイルス感染症対策をしながら12月13日(日)に桶川市民ホール・さいたま文学館にて行われます。重松清さんの記念講演が聞けたり(要予約)、「図書館がわかる展示」が企画されていたり、図書館と本を身近に感じられるイベントです。今年はその様子を後日オンラインで見られることもできるよう。「興味はあるけど、会場には行けなそう」という人もオンラインを活用して自宅からイベントの雰囲気を感じてみてください。

913.6-シ 『空より高く』 重松 清 || 著 中央公論新社

3月で廃校となることが決まっているトンタマこと東玉川高校。入学した時から「最後の1年生」、「最後の入学式」と、何をすることも「最後」がついてきたトンタマ生は、3年生しかいない校舎で「あと何回『最後』があるんだろうな」と思いながらぼんやり学校生活を過ごしていた。そこに『『最後』で『終わり』だからこそ、なにかオレたち、始めてみようじゃないか!」、「レッツ・ビギン!」と熱く燃えるジン先生が現れた! 初めはジン先生の熱意に戸惑うトンタマ生だったが、先生の言葉に心を動かされた彼らは、残された学校生活で何かを「始める」ため動き出す。

先生と図書館司書の「今月はこの本を読みました」

司馬遼太郎の『燃えよ剣』(B913.6-シ 新潮社)は幕末期の動乱の世に登場した土方歳三の物語です。私が高校生の頃、だから今から40年以上も前になりますが、その時にも読みました。その時は、どういう結末になるのだろうか、と夢中で読んだ記憶があります。

改めて今月読みました。高校生の時に感じた「男の生き方」について、だいぶ捉え方が変わったなど私自身強く思いました。一つの作品を通して年代によって感じ方が変わってくるのです。幕末期の勉強にもなりません。軽い気持ちで1ページの1行目を読んでください。 【社会科 本多先生】

村上春樹さんの小説は今まで色々読んできましたが、今回村上春樹さんの『一人称単数』(913.6-ム 文藝春秋)で1つ初めての経験をしました。それは村上さんの小説を読んで「笑った」ということです。この本には8つの短編小説が収められていますが、私が思わず笑ってしまったのは『品川猿の告白』という作品です。主人公の僕は一人旅で訪れた古い温泉宿で人間の言葉を話す猿に出会います。宿でひっそりと働くその猿に僕は興味を持ち、部屋に招いて身の上話を聞きます。その会話の中に作品の本題である猿の“ある告白”が含まれているのですが、私はちょっと脱線して猿の人間らしすぎる発言や身につけているものにユーモアを感じ、笑ってしまいました。おそらく「読者を笑わせよう」という著者の狙いはそこにはないと思うので、そんなところがおもしろかったと言っても村上春樹さんは複雑かもしれません。でも、「そんな感想を持つ読者もいるのだな」と寛容に受け止めてほしいです。 【今井】

図書館で出会う！～【アート】に出会う編～

冒頭でも紹介しましたが、博物館・美術館・図書館・アニメミュージアムが融合した複合施設を含む「ところざわサクラタウン」がオープンしました。身近な場所に様々な形で文化や芸術に触れられる施設ができるのは嬉しいことですね。これからどんな企画が行われていくのか楽しみです。

この季節になると「芸術の秋」という言葉をあちこちで耳にするようになりますし、秋草の図書館にいながらも広くアートの世界を楽しんでほしいと思い、今月は【アート】と出会う本を集めてみました。たくさんの方の芸術に触れて、心を豊かにしてください。

◆展示本リスト◆

- 520-セ 『聖地建築巡礼』 エクスナレッジ
→人々の思いが宿る聖地に建つ73の建築物。それぞれの持つ造形的美しさに魅せられます。
- 702-ミ 『かわいい琳派』 三戸 信恵 || 著 東京美術
→日本美術で人気の高い琳派を「かわいい」という新しい視点から鑑賞してみませんか。
- 706-フ 『直島 瀬戸内海アートの楽園』 福武 総一郎/安藤 忠雄 || 著 新潮社
→現代アートの楽園として注目される直島。そこではどんな芸術と出会うのでしょうか。
- 710.8-ミ 『ANIMALS』 三沢 厚彦 || 著 求龍堂
→現代木彫家 三沢厚彦さんの作品集。木彫りの質感と動物たちの表情を楽しんでください。
- 708-ポ 『ヴァチカン美術館』 Andrea Pomella || 著 デアゴスティニ・ジャパン
→「美の迷宮」とも呼ばれる世界最大級の美術館の傑作が1冊に集約された贅沢な図録。
- 720-ア 『もっと知りたいロートレック』 杉山 菜穂子 || 著 東京美術
- 720-ア 『もっと知りたいルドン』 山本 敦子 || 著 東京美術
→三菱一号館美術館で開催中の「ルドン、ロートレック展」の予習復習に役立つ2冊。
- 913.6-ハ 『楽園のカンヴァス』 原田 マハ || 著 新潮社
→名画をめぐるミステリー。絵画に興味のない人もぐいぐい惹き込まれるおもしろさ。
- 914.6-ヤ 『山内マリコの美術館は一人で行く派展』 山内 マリコ || 著 講談社
→絵を観てどんな感想を持つかはその人の自由。色々な企画展に出かけたくなる本。

この中でも、いちおしなのは…

913.6-ハ 『楽園のカンヴァス』 原田 マハ || 著 新潮社

フランスの画家アンリ・ルソーが描いた『夢』その絵と瓜二つの『夢をみた』という絵の真偽を“物語”から読み解くためにルソー研究家の早川織絵とティム・ブラウンはスイスへと招かれた。ルソーに魅せられ、研究の道を進んできた彼らは初めて目にする絵画『夢をみた』や謎に包まれた物語に驚きと感動を覚える。これはルソーの描いた絵なのか。物語は創作なのか史実なのか。幻の名画を求めいつもの陰謀が渦巻く中、ふたりは時にライバルとして、時に同志として、絵に隠された真実を追う。

新着本コーナーの気になる1冊

545-ハ 『あかりの学校』 橋田 裕司 || 著 マール社

あかりは快適に生活を送るためだけでなく、癒しをもたらす効果も持っています。みなさんもキャンドルやランタンの優しいあかりにホッとすることがあるのではないのでしょうか。その経験を思い出しながら、心安らぐあかり作りに挑戦してみませんか。折り紙を使ったあかりや紙コップとピンポンを使ったあかりなど、身近なものを使った簡単なあかりの作り方も載っているので、好きなデザインで作ってみましょう。



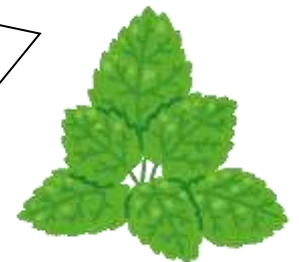
596.4-ア 『朝10分でできるスープ弁当』 有賀 薫 || 著 マガジンハウス



温かい食べ物が一段とおいしく感じられる季節。スープジャーがあれば、お弁当にもぬくもりが生まれます。しかもスープ弁当は作るのも簡単。この本のレシピはどれも10分で完成します。味や具材のバリエーションも多く、飽きることなく色々な味を楽しめます。少しだけ早起きをして仕込めば、お昼には手作りのおいしいスープで体も心もほっこりできること間違いなし。午後の授業もきっと頑張れますね。

913.6-タ 『愛されなくても別に』 武田 綾乃 || 著 講談社

この物語には3人の女子大学生が登場します。愛という言葉で母親との関係を保とうとする宮田、家族なんて幻想だという江永、母親の干渉から逃れようとしながら自立できない木村。同じ大学の顔見知りだった彼女たちは偶然関わりを持ち、相手もまた家族に悩んでいることを知ります。互いに支え合ったり、ぶつかり合ったりしながら、変化していく彼女たちの姿にみなさんは何を感じるでしょうか。



B913.6-コ 『震える教室』 近藤 文恵 || 著 角川書店



伝統ある女子校・鳳西学園ほうせいに入学した真矢は、クラスメイトの花音と友だちになる。きっかけは花音が真矢の袖を掴んできたことだった。初対面でそんなことをしてきた花音に戸惑う真矢だったが、その後もっと驚くことが起こる。花音と手を繋ぐと見えてしまうのだ…、見えるはずのない何か。自分の身に起こった不思議な現象と、学校に潜む数々の怪異に恐怖を感じながらも、真矢は花音と謎を追い始める。